
デジモン・ゲート

メラッチXX

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デジモン・ゲート

【Nコード】

N4065I

【作者名】

メラッチXX

【あらすじ】

毎日の生活が退屈な少年「桜井信田」はいつもの様にパソコンをしていたが突然パソコンのディスプレイが七色の光を放ちその光に吸い込まれてしまう！

そこで信田はリュウダモンというデジタルモンスター（略してデジモン）と出会い一緒に冒険をすることになる。

1話・冒険の始まり（前書き）

初投稿です。

1話：冒険の始まり

「信田あ早くしないと遅刻するよお!!」

お母さんの声がある、いつもの学校に行きなさいだ。

毎日毎日「遅刻するよお!!」と大声で言えるもんだ、そのうち耳の鼓膜が破けるんじゃないのかと思う、俺はいつものように服を着替えカバンをしょって学校に行く、でも学校つまないんだよなあ。

その理由は分かっている。

俺が短期でいたずら好きだから皆が寄り付かない!!嫌われてるということだ。

そのせいで親友の花道は離れて云ってしまった。

本当に毎日がつまらない。

俺はいつものように教室に行き椅子に座る、その後すぐに眠る、クルスの野郎はいつものようにグループになって話してるし中には持ってきてはいけないのにマンガを持ってきて読んでる奴、どいつらもうザい、そう退屈だ!!

ならいたずらしよう、いつものように。

俺は席を立ち机にある黒板消しを持って少しだけ開いてる扉をもう少しだけ開かせてその間に黒板消しを挟んだ、準備万端だ!

「うっしっし」これで完成さーって席に戻ろう」

「ガラガラ」

と扉が開く、「誰か来たのか?」

そう思いながら振り向いたその瞬間後ろには担任の麻倉南先生がいた。

「桜井いくくん?」

「へっ先生、何でここにいますか?」

俺は怒ってる先生を見た、ついでに周りの皆を見てみたが皆はあきれたような顔をしている。

「あなたのいたずらはもうすでに攻略しています!!!」
良く見ると黒板消しクリーナーが先生の手に渡っているのではない
か。
なぜと思いながら俺は職員室に連れて行かれた。

数分後俺は説教から解放され教室に戻る、やっぱり皆は俺を見てい
た。

「ったくう桜井も馬鹿だなあ〜いたずらばっかしてさ。」

「そうだよ、あいつ俺たちに構ってもらいたくてやってるんだと思
うぜ?」

「だよな、でもあいつ気持ち悪いじゃん?」

「でもいたずらばっかしてるからやっぱ寂しいんじゃない?」

「だってあいつの父親ってさ…」

ひそひそひそひそ!!!

そう、俺がいたずらした後いつもこうやって俺の事を言う。

俺はいつもの様にクラスの奴らに非難されながら学校生活を送る、
そしていつもの様に学校生活が終わり一日が終わるはずだった。

しかし今日は違っていた。

俺は家に帰った後カバンを置きパソコンをやる、最初にかくのは皆
も知ってる「ニコニコ動画」だ。

そこで俺はいろんな動画を見て笑いながら過ごしていた。

だけど違っていったんだ、さっき言ったように今日は違っていったんだ。
俺はインターネットをやり終わってパソコンの電源を切る。

だけど全然切れない!

パソコンが壊れた?

そう思いながら俺は強制停止ボタンを押す、反応しない!!

「おいどうしたんだよこのパソコン、全く反応しねえ!」

俺はパソコンをそのままにした、だけどその時パソコンの画面から

光が出てきたんだ。

それは七色に光る光で俺はそのパソコンに吸い込まれてしまう。

「ぼいつ！」

俺は吸い込まれた穴から追い出された。

「いちち〜」

どうやら頭をうつたらしい、そして目をあけるとそこには得体の知れない物体がいた。

姿はなんか竜で、でも小さくて鎧を着ていた、でも鎧があれ。

「うわぁー!!」

なんだこいつ？

そう思いながら俺は後ろに下がった、でもそいつは俺を見て「う言っただ。」

「おっす！僕リュウダモン。」

「信田、君を待っていたんだよ。」

「・・・はい？」

何のことかわからなかったのか俺はその場で固まっていた。
それが俺とデジモンとの出会いだった。

1話・冒険の始まり（後書き）

どうでしたか？

初めての投稿で表現も浅いですがもしよろしければ感想を送ってください。

この物語はまだ始まったばかり、これからリュウダモンと信田の活躍を楽しみに待ってください。

更新スピードは遅い方だと思います。

でも最後まで書きあげますので応援よろしくお願いします（^^）

信田とリュウダモン vs フライモン

「リュウダモン？」

俺はそいつに聞いてみた。

「なあ、ここは一体どこなんだ？ どうすれば元の世界に帰れるんだ？」

「ここはデジタルワールド、ファイル島って島なんだ。」

リュウダモンはニコニコと答える、まるで俺の事を生まれた時から知っていたような感じだ。

「お前は一体何者なんだ？」

俺はさらに質問を続ける、どうやらこいつはデジモンっていきものでほかにもいるとか何とか。

話をしているうちに空が暗くなった、上を見上げると。

キツシャーア！！

なんと、空に現れたのは大きな蛾みたいな化けものだった。

「なっなんだあ~~~~~？」

「オイ、あれもデジモンなのか？」

「あれはフライモン、アイツの毒針に刺された奴は死ぬんだ！」

「ええ！？ そっそんなあ・・・」

俺達はフライモンの攻撃から一目散に逃げる、死ぬのは嫌だからだ。
「くっこうなったら、居合刃！！！」

リュウダモンは高くジャンプしフライモンの懐に入る、そして直ぐに切った！

フライモンは目をやられたのかどうやら痛むようだ。

「よっしゃー！ これなら相手は倒れるぞお！」

俺はそう思いながら立ち止まる、しかしそう甘くはない。

キツシャー!!

奴め目をつぶしたのにまだ生きてやがる、ただどこは逃げるのが得だ、俺はリュウダモンを持ち上げて逃げる。

だけどその時「オイまた逃げるのかよ桜井、逃げるなって言ってるだろうが!!」

俺の元親友花道の声が聞こえた、何故か頭の中に響いてるようだ。

「……なぜ、アイツの音が……?」

目の前にはあいつがいた「花道! なっなんでお前がいるんだ?」

信田とリュウダモンvsフライモン（後書き）

2話です。

ハイ、フライモン登場です。

最初はクワガーモンにする予定だったのですが辞めました。

デジモンアドベンチャーでは最初はクワガーモンだったからオリジナリティが欲しかったんです。

では、第3話も楽しみにしててくださいね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4065i/>

デジモン・ゲート

2010年10月28日04時48分発行